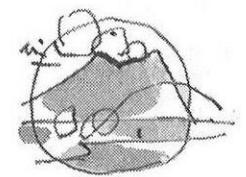


ていくのだが、私はここに素朴さも一緒に失われていくようと思う。人間形成は

素朴さのなかから生れていくようと思うのだが。  
(詩人)



## 年頭に思うこと——鰐渕 健之

毎年今年こそは  
と思いながら為し  
得なかつたことは

だん年をとつてると、出来そうもない  
ことは諦めて、これだけは是非というあ  
せりが出てくる。人間は一つの仕事に一  
生を打ち込めたら、それが一番幸福だろ  
うと思う。の中に楽しみもあり、生き  
甲斐があるからである。然し色々の仕事  
にあくせくしていると、精神的にでも何  
か一生を貫ぬくものをもたないと、人生  
の意義がないように思う。

私は職を退いて自適の生活を送れたら  
思うことをして人生のしめくくりをつけ  
たいと思っていたが、それがいつのこと  
やら、またその余裕があるかどうか分ら  
なくなつた。馬上青年老時平白髪多残  
生天許所不樂其如何という詩がある。  
文化国家として社会保障制度の完備した  
世の中ならば、青年時代から馬上で過し  
て白髪の多くなつた政宗でなくとも、せ  
めて残生だけは楽しく暮したくなるであ  
るが、敗戦という事実はわれわれにそ  
の余裕を与えてくれなかつた。ともあれ  
私は本職以外にやりたいと思う望みが

うするのであつてはならぬ、自分の心で  
考え苦しみをこえてねりあげ、辿りつい  
た自分自身の考え方から出たものでなけれ  
ばならない」と。  
教師が子供の心をだきしめるように理  
解し、しかも気ながく子供が自分の力で

二つある。大それたことをいうようだが  
世界平和と公明選挙である。

昭和二四年一月、熊本大学の開学式  
に、文化国家の建設に不抜の覚悟を固め  
ることの必要を説いてからは、教育を通  
じて世界平和を促進することを心に誓つ  
た。無力なわれわれは内外の情勢を嘆き  
憂うるだけで、何とも致し方なかつたが  
三三年の暮には世界連邦建設同盟熊本支  
部を作つて、県初め市町村の平和都市宣  
言を促進し、幾度か大会を催し、ま  
た毎月同志の例会を開いて、平和思想を  
日常の生活にとり入れることについて話  
し合つてゐる。今後もこの運動を続けた  
いと思う。

民主主義の根本は正しい選挙である。

然るに日本の国民党は、ただ政治家や政党  
を攻撃するだけで自分達に与えられた選  
挙権を正しく行使して、真に信頼し得る  
代表を選ぶことが必要であることを自覚  
しない。公明選挙連盟の生みの親である  
前田多聞先生は、熊本に来られた折私は  
「選挙が正しく行なわれない限り正常な  
国家の發展は望めない。何とかして次の  
世代を担う青年にこのことを銘記させた  
い」と話され、奉仕是人生と色紙に書い



## 茶の間の学習——波多野がく

日曜と夕食後の  
一時間、勉強か  
ら解放される孫た  
ちの仲間入りして、久方ぶりに、しみじ  
みテレビを見入つたが、なかなか見えた  
えのあるものが多い。作者の深刻な人生  
観がさまざまのセリフや演技に表現され  
てせまつてくる。

その一つ「次郎物語」の中に次のよう  
な場面があつた。次郎の学級の数学のA  
教師はかねがね生徒から少し馬鹿にされ  
ている。

次郎は不斷このA教師に同情し、クラ  
スマートのA先生に対するやり方に対し  
て、義憤を感じていた。ところがある日  
の授業で、そのA先生が誤った板書をす  
る。次郎はそれに気付いて学友達に騒が  
れないので、次郎を叱りとばして廊下にほう  
り出す。中学一年といえばまだ青年前  
期、次郎のやるかたないやしさは怒り  
に変り、学友の同情もあって、どんな先  
生方のすすめがあつてもA先生と妥協し

スメートのA先生に対するやり方に対し  
て、義憤を感じていた。ところがある日  
の授業で、そのA先生が誤った板書をす  
る。次郎はそれに気付いて学友達に騒が  
れないので、次郎を叱りとばして廊下にほう  
り出す。中学一年といえばまだ青年前  
期、次郎のやるかたないやしさは怒り  
に変り、学友の同情もあって、どんな先  
生方のすすめがあつてもA先生と妥協し

よとしない。次郎とA教師との気まず  
さは日に日に深まっていく、そのとき現  
われるのが生徒の信望を一身に集めてい  
る朝倉先生である。

朝倉先生には、A先生の気持、次郎の  
やるかたない若い怒りもよく理解出来る  
人間の温さと深さがみちみちている。次  
郎はこの絶対信頼している朝倉先生に  
「A先生にすみませんでしたと言えないと  
か」と言われて、その言葉の内容の重さ  
に非常にやむ。次郎は長い間考え、な  
やみぬいて、朝倉先生の言葉の意味する  
ものが少しづかってくる。そうしたある  
日、友人と先生の家を訪ねるが、その  
とき朝倉先生は次郎の心の成長をみと  
て次のようなことを論される。

「大きな組織や、団体の中では、小さ  
い出来事について、その善惡や、正誤を  
何もかも一つ一つたしかめ合つていては  
より大きな秩序や調節を図るために、じ  
つとがまんして、そつとしておくことも  
又全体のために大切なこともあります。し  
かしそれは決して、他人に強いられてそ  
しているのである。

ところでおが家は仕事の関係で遅く帰  
る日が多く、ときたまに早く帰宅すると  
幼稚園に通う二人の子供が飛んで来て前  
や後からまきつき「パパお帰り」と迎え  
るがすかさず「パパどうして今日は早か  
つたの」と不審がる。しかし夜はともに  
遊んでもらえる事を信じ彼らは一日の出  
来事を話してくれるのである。たまたま  
今日は少しゆっくり出勤しようかと思ふ  
と「パパお仕事におくれるよ！お仕事が  
待っているよ！」と笑顔でさとす。

時間的には殆ど家庭をかえりみられない  
父親の存在になってしまった子供がか  
わいそうでもあるし、それにもまして満  
ち足らない子供たちを満足させてやれる  
妻の力に感謝している。

そして明るく互いに信頼し合つた居心  
地の良い家庭がいつまでも続く事を祈る  
ばかりである。

に奉仕したいためである。  
(熊本商科大学々長)

新 し い 年 の 生 活 設 計

- 国旗を掲げてゆかしい正月
- ムダな贈答はぶいて貯蓄
- 虚札はやめて家庭でだんらん

<熊本県新生活運動協議会>

世の中には夫婦の不和、姑嫁、借金苦  
等の問題を持つ者もいるが皆が望む基本  
的な幸わせは「よき家庭を持つ事」であ  
るのではないかと思う。人々がその安ら  
ぎの場とする家庭が、最近では農村、中  
小企業などの労働力不足による若い人の  
流出、父親の出かせぎ、サラリーマン化  
した父母の働きが多くなってきた。学校  
から帰つても温い言葉をかけてもらえない  
成長期の子供には非常にさびしく情な  
い事である。

私は、数年前オーストラリア、ニュー

ジーランド、東南アジア諸国を訪問する  
チャンスが与えられた。ニュージーラン  
ドでは民泊が多く種々の家庭生活での体  
験を得た。その中で最も記憶に残つてい  
ることはとても家庭を大切にする事と公  
共物を美しく保つている事である。

日本の場合、夫は仕事帰りに仕事の関  
係もあってか「つき合いで」「大分疲れ  
たから」「久しぶりに逢つたから」等と  
飲屋に立ち寄る人々の多いこと。

ところが「ユージーランドでは殆んど  
の職場は土曜日曜は休みのため毎週金曜  
日は給料日でその給料袋を持って家庭へ  
と急ぐのである。給料のぬき取りなど考  
えもしない。何と味けなく情けない亭主  
族よと思われる人もあるかも知れない。

必ず決まった時間に帰つて生活を楽し  
むために色々と工夫する。芝刈り、ペン  
キ塗り、家庭大工をするため、その用具  
を整えたり修理したりして主婦を助けて  
いる。主婦は夫にいかにサービスしよう  
かとともによき家庭を築くために努

(Y M C A・熊本青少年センター)